

広島大学病院 がん医療従事者研修会

広島大学病院では、がん診療の質の向上及び専門的な知識の普及を目的とし、がん医療に携わる医師・薬剤師・看護師等を対象とした研修を以下のとおり開催いたします。

講演

「超高齢社会におけるがん診療と地域医療」

広島大学医歯薬保健学研究院地域医療システム学[寄附講座]
教授 竹内 啓祐 先生

超高齢社会のなかで医療は激変する。高齢化とともに2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで死ぬ時代となった。多死社会が到来し、2030年には47万人が看取り難民化すると見積もられている。がん対策基本法などでがん診療体制は整いつつあるが、死に場所も含めた安心体制の確保は果たして可能であろうか。国は医療機能の集約と在宅医療の拡充でこの難局を乗り切ろうと大きく舵を切った。がんに関しては、診療連携ネットワークの充実と在宅緩和医療の推進が喫緊の課題と思われる。それに加えて「命を長らえる医療」から「死を受け入れる医療」といった意識の転換も必要となろう。今回はがん診療の地域における受け皿について述べてみたい。



講師紹介

1980年自治医科大学卒業
以降一貫して広島県職員として中山間地域医療に従事
2003年県立神石三和病院院長
2006年県立広島病院総合診療科部長
2010年より現職
広島県医師会在宅医療推進委員会委員長
広島県地域包括ケア推進センター看取り部会長
広島市在宅医療・介護連携推進委員会委員長

(座長) 広島大学病院 がん化学療法科 教授 杉山 一彦 先生

日時 ▶ 2015年7月9日(木)18:30~

場所 ▶ 広島大学医学部 広仁会館2F大会議室

〒734-8551 広島市南区霞1丁目2番3号

参加申込は、広島大学病院医療支援グループへお知らせください。

✉ byo-renkei@office.hiroshima-u.ac.jp

Fax: 082-257-1720 Tel: 082-257-5934

(主催)